

広報指導分団、機能別分団の誕生

香川県 高松市消防局

1 はじめに

高松市は、面積375.20km²、人口は約42万人の県都であり、多島美を誇る波静かな瀬戸内海に面し、これまで、人々の暮らしや経済・文化など様々な面において、瀬戸内海との深いかかわりの中で、四国の中核都市として発展を続けてきた、海に開かれた都市です。

これまでに大正、昭和、平成を通じ、8回にわたる合併で、北は瀬戸内海から南は徳島県境に至る、海・山・川など恵まれた自然を有する広範な市域の中に、にぎわいのある都心やのどかな田園など、都市機能・水・緑が程よく調和し、豊かな生活空間を有する都市となっています。



恵まれた風土と地理的優位性を生かし、四国の中核管理都市として発展してきましたが、特に昭和63年の瀬戸大橋開通や平成元年の新高松空港開港、平成4年の四国横断自動車道の高松への延伸などにより高松市を取り巻く環境が大きく変化する中、平成11年4月、中核市に移行しました。

2 広報指導分団の誕生と活動内容

高松市消防団は、平成26年11月1日現在、1団本部、8方面隊、35分団、消防団員1,585名の組織体制となっております。

平成21年4月には、広報・啓発活動を目的として、8名の女性団員が入団し、平成26年4月1日に団本部付の広報指導分団（現団員数38名）として再編成すると共に、従来の活動に加え、大規模災害時における後方支援活動も行うこととしました。主な活動である高齢者宅を訪問する防火診断や、普通救命講習においては、女性ならではの細やかな気配り、親切丁寧な指導が好評で、市民の方より「次も広報指導分団の方に来てほしい」という声が多数届いています。



3 機能別消防団員「大学生消防団員」の導入

(1) 目的

地震等の大規模災害が発生した場合、広範囲にわたって多大な被害が発生することから、数多くの災害対応活動が必要となります。

特に、避難所の早期開設及び運営は大規模災害時の最重要課題であり、膨大な数の被災者の受入れを行なう必要があります。

このようなことから、基本団員を補完することを目的として平成26年7月、防災士の資格を取得、又は取得予定の56名の大学生が入団し、大規模災害時に活動する機能別分団を結成しました。また、この対応を大学生が行なうことで、最前線での基本団員の活動は、より充実するものとなります。

(2) 主な役割

地震などにより、災害対策本部が設置されるような大規模災害時の消防団活動のうち、被災した市民等に安心と安全の場を提供するための「避難所の運営支援」を実施するもので、下記に示す役割を主な担当として活動することとしています。

- 避難所やその周囲の被害状況などを災害対策本部等への情報伝達
- 本市の備蓄物資や救援物資の配布及び管理
- 負傷者への応急手当等

その他、指定避難所において、本市指定職員や自主防災組織などと連携して災害活動のサポートを実施し、大学生の「若さ」と「行動力」や「専攻学科能力」を有効かつ効果的に活用することにより、大規模災害発生時の避難所運営体制の充実を図るものです。

また、平時においては、防災訓練に参加するなど、住民の防災意識の高揚に寄与する活動にも取り組むこととしております。



4 まとめ

高松市消防団は、「自分たちの町は自分たちで守る」という精神のもと、近い将来に発生が確実視されている東南海・南海地震などの大規模災害発生時に備え、各種広報媒体による入団の啓発活動はもとより、団員が地域で積極的に入団の働きかけを継続し、今後も消防団員としての誇りと情熱を胸に、消防団の重要性を地域住民に積極的にPRし、理解していただくと共に、地域住民の安全と安心のための活動に積極的に取り組んでいきます。

